

アンケートの結果について

2 月に行いました保護者アンケートでは、たくさんの方にご回答していただくとともに、貴重なご意見をいただきありがとうございました。子どもたち及び教職員も同様にアンケートを実施しましたので、重要度と実現度の 2 つの軸をもとに、本校の課題となる点や魅力といえる点を中心にご報告いたします。

重要度・実現度 最高 7.0

ニーズ度が 25 以上または 25 に近い項目が課題となる点です

1 保護者アンケート 分析結果

質 問 文	重要度	実現度	ニーズ度	教職員評価 ニーズ度
授業の内容を理解すること	6.9	4.5	24.2	26.6
集中して学習に取り組むこと	6.8	4.3	25.2	28.7
毎日、家庭学習をすること	6.2	4.6	21.1	27.1
読書をすること	6.1	3.3	28.7	25.8
先生の話や友だちの意見をしっかり聞くこと。	6.8	4.5	23.8	25.9
相手の気持ちを考えること。	6.8	4.6	23.1	25.2
誰に対しても挨拶ができること	6.6	4.3	24.4	38
正しいことばづかいができること	6.5	4	26	31.7
みんなで協力をして何かをすること	6.6	4.6	22.4	21.4
進んで体を動かしたり運動したりすること	6.4	4.8	20.5	24.7
早寝・早起きをすること	6.5	4.3	24.1	28.6
朝ごはんを食べること	6.7	5.8	14.7	21.4
約束やきまりを守り、安全に気をつけて遊ぶこと	6.8	4.9	21.1	27.3
学校の様子が「ホームページ」や「おたより」で分かること	6.1	4.5	21.4	22.8

アンケート結果から

本校の課題

重要度・実現度が 7.0 に近いほど重要であり実現できているといえます

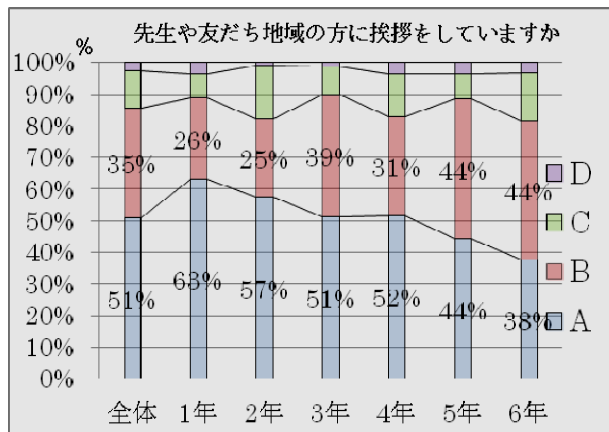
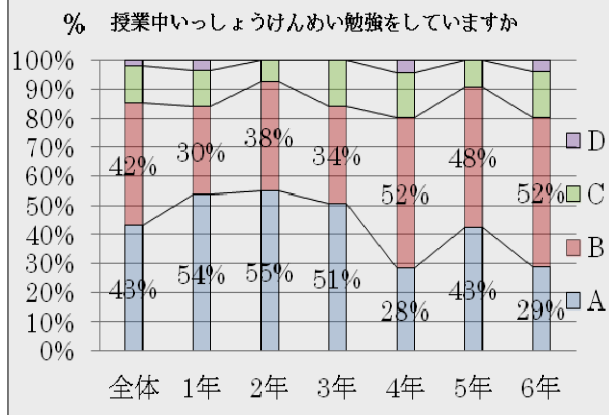
1. 『集中して学習に取り組むこと』

7 月の結果と比べてみると、全体の AB 評価は 5% 程度下がっています。また、学年により結果に開きがあります。児童アンケートでは学校での授業について聞いていますが、保護者アンケートでは家庭での様子についても含めて答えておられると思います。集中力を高めていくには、まずは短時間でもいいですから決められた学習をやり遂げていくことです。苦手な子どもに最初から長い時間集中させることは大変です。また、家庭では決められた場所・決められた時間に学習を行っていくことが大切だと思います。学校ではやはり子どもたちが分かる学習、みんなが参加する学習を大切にしていきたいことを今後も継続して取り組んでいきたいと思っています。

2. 『誰に対しても挨拶ができること』

教職員評価のニーズ度は 30 以上あり大変高くなっています。児童のアンケートでは AB 評価は 80% 程度で、前回より 7% 程度高くなっています。右のグラフを見ても分かるように A 評価は低学年が高く学年が上がるにつれ低くなっています。大切なのは高学年を中心に挨拶ができるように変わっていくことだと考えます。朝の登校の様子や地域の方々のお話を聞いているとアンケートの結果ほど挨拶ができるように大きく変わってきたということはあまりないようです。反対に挨拶ができていないということをよく聞きます。児童会を中心に挨拶運動の取組を工夫していますが、さらに教職員全体でも共通理解を図り考えていきたいと思っています。

児童アンケートより

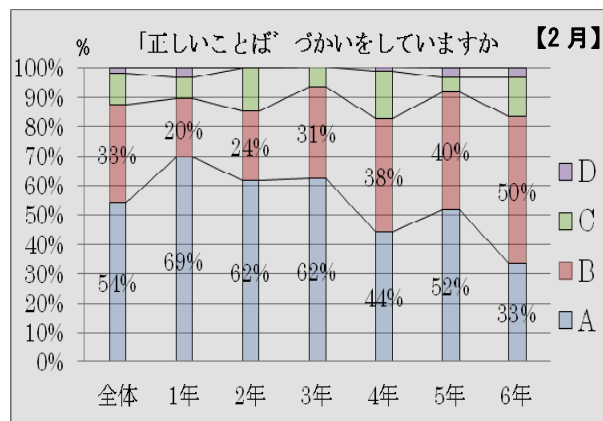


A…よくできている B…だいたいできている
C…あまりできていない D…できていない

3.『正しい言葉づかいができること』

保護者アンケートのニーズ度は28.4, 教職員評価のニーズ度は31.3, 児童アンケートのAB評価の割合は87%, となっています。子ども達自身は出来ていると捉えているようですが、実態としてはまだまだ不十分というところではないでしょうか。正しい言葉づかいを身につけて行く上で学校や家庭はとても大切なところです。授業時間中は指導者側もこのことを意識して「です」「ます」を基本に取り組むようにしています。また、職員室や保健室等に入る時も正しく挨拶ができるよう子どもたちに声かけをしています。今後の課題として、場に応じた言葉遣いだけでなく、子ども達同士の間でも相手が気持ちよく受け止められるやさしい言い方ができるようになればと思います。

教職員評価	重要度	実現度	ニーズ度
正しい言葉づかいができること	6.8	3.4	31.3



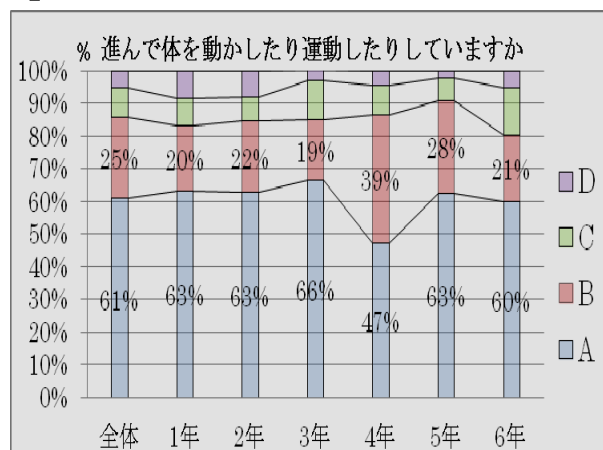
ニーズ度が25以上または25に近い項目は課題となる点です

本校のよい点 向上した点

『進んで体を動かしたり運動したりすること』『朝食をとること』

保護者アンケートでは上の2項目が本校のよい点という結果になりました。高学年では毎朝のランニングをはじめ、部活動など継続して行うことを大切に体力づくりに取り組んでいます。また、全学年に関わっては綱引き大会や相撲大会、大なわ大会等学校外での大会への参加に向けて練習に取り組んでいました。しかし、児童アンケートの結果をみると必ずしも全てが高い割合ということではありません。子どもたちが楽しく体力づくりをすることができるよう今後も工夫していきたいと思います。

『朝食をとること』については児童のAB評価は96%でほとんどの子どもたちが朝食をとっています。しかし、基本的な生活習慣にかかわる早寝・早起きについては、ほぼ全学年において十分にできていない実態があります。早寝・早起き・朝ごはんを一体のものとして考えていくことが大切だと思っています。



自由記述欄より(※学校全体に関わる内容を掲載します)

- ・入学してから4月の授業参観日が分からないので入学説明会時に4月の予定は教えてほしいです。
- ・どの項目も重要だと思っていますが学校だけでなく家庭でも頭において取り組むことが大切だと思います。
- ・参観日をもっと増やしてほしいです。
- ・進むスピードが昔より早い気がします。ついていけない子がいるときは分かるまで教えていただけたらうれしいです。
- ・宿題が分からないといっています。
- ・話すときは相手の気持ちを考えて自分が言われて嫌なことは絶対に言わないことを徹底してほしいです。
- ・子どもたちに挨拶をしても、できていない子が多いです。
- ・高学年になるほど、「挨拶」や「言葉づかい」はきちんとできるようになってほしいと思います。
- ・授業の様子、休み時間の様子、その他活動の様子などをもっとホームページにアップしていただきたい。
- ・ノートを見てみると、字のきたなさがとても気になります。分かりやすくメリハリのあるノートの書き方を少しずつ身につけて、自分で勉強できる力をつけてほしいです。

○4月の行事予定はできるだけ早くお知らせできるようにしたいと思います。

○家庭での継続的な学習の大切さを踏まえて、宿題の内容については学年で話し合い内容時間等を考えて出しています。上記の感想のようにご不明な点があれば、すぐに担任までご連絡ください。

○ノート指導の大切さは学校でも話し合っています。丁寧に書くことの大切さとともに検討していきたいと思っています。

感想・ご意見の欄では、他にもよかった点や改善すべき点について貴重なご意見をたくさんいただきました。課題として挙がってきたことについては、共通理解を図り、改善に向けた取組を進めてまいります。今後ともますますのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

(1) 読書活動の推進

言語に関する能力をはぐくむに当たっては、読書活動が不可欠である。学校教育においては、例えば、国語科において、小学校では児童が日常的に読書に親しむための指導内容を、中学校においては生徒の読書をより豊かなものにするための指導内容をそれぞれ位置付けるなど、各教科等において、発達の段階を踏まえた指導のねらいを明確にし、読書活動を推進することが重要である。もちろん、読書習慣の確立に当たっては家庭の役割が大きい。学校、家庭、地域を通じた一層の充実が必要である。

(2) 学校図書館の活用や学校における言語環境の整備の重要性

言語に関する能力の育成に当たっては、辞書、新聞の活用や図書館の利用などについて指導し、子どもたちがこれらを通してさらに情報を得、思考を深めることが重要である。また、様々なメディアの働きを理解し、適切に利用する能力を高めることも必要である。

(7. 教育内容に関する主な改善事項 (1) 言語活動の充実)

上記(1)(2)に関わっては、本市でも、平成24年度「学校教育の重点」の中で、学校図書館の利活用の重要性を次のように述べ、その推進を図っている。

＜学校教育の基本指針1「確かな学力」の育成に向けて(4)『言語活動の充実』＞

学校図書館を、自ら学ぶ「学習・情報センター」、豊かな感性や情操を育む「読書センター」として活性化させ、計画的に利用すること、また、学習情報源として新聞を計画的に活用することで、子どもの主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実を図る。

＜重点項目「言語活動の充実・コミュニケーション能力の育成」校種別の重点取組＞

小中学校・学校図書館の積極的な利用促進を図り、休み時間や放課後の開館に向け最大限努力する。